
東北大学陸上競技部

OB・OG通信

2018年No.6 (2018.12)

- ・ 秩父宮賜杯第 50 回全日本大学駅伝対校選手権大会
5 時間 49 分 34 秒で総合 25 位
 - ・ 第 36 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会
東北学連選抜チームとして栗原(M1)、飯田(4)が出場
 - ・ 第 30 回出雲全日本大学選抜駅伝競走
東北学連選抜として齊藤(D3)、松浦(3)が出場
 - ・ 第 73 回国民体育大会
宮崎(M2)、佐貫(3)、山崎(1)の 3 名が出場。佐貫が成年女子 400m で 8 位入賞！！
 - ・ 第 34 回 U20 日本陸上競技選手権大会
芦田(2)、山崎(1)の 2 名が出場。芦田が U20 男子 200m で 6 位入賞！！
-

- ・ 第 30 回出雲全日本大学選抜駅伝競走 2～3 ページ
- ・ 第 36 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 3～4 ページ
- ・ 秩父宮賜杯第 50 回全日本大学駅伝対校選手権大会 5～11 ページ
- ・ 第 73 回国民体育大会 12～13 ページ
- ・ 第 34 回 U20 日本陸上競技選手権大会 13 ページ
- ・ 第 69 回東北地区体育大会陸上競技 14 ページ
- ・ 第 47 回東北学生陸上競技選手権大会 15 ページ
- ・ OB・OG 対現役対校戦 16～18 ページ
- ・ 秋保マラソン 19 ページ
- ・ 東北大学陸上競技部祝勝会 19 ページ
- ・ 自己ベスト更新者 20 ページ
- ・ 今後の予定 20 ページ
- ・ 編集後記 20 ページ

向冬の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、秩父宮賜盃第 50 回全日本大学駅伝対校選手権大会の結果を中心に、各大会における選手の活躍をお伝えします。

◎ 第 30 回出雲全日本大学選抜駅伝競走 (10/8) ・出雲大社～出雲ドーム (島根)

地方学連選抜を含む 21 チームにより争われました。東北大学からは、齊藤(D3)、松浦(3)の 2 人が東北学連選抜として出場しました。選手のコメントを掲載します。

第 1 区 松浦 崇之(3)

憧れの舞台から勝負の舞台へ

この度、第 30 回出雲全日本大学選抜駅伝競走に東北学連選抜として出場させていただきました。私は 2 年連続 1 区を走らせてもらいました。結果は以下の通りです。

8km 24'24(17 位/21 位)

ラップ(2'59"0 2'53"0 3'02"5 2'56"4 3'03"6 3'04"8 3'05"0 3'01"8 (0'20"0))

GPS ウォッチで 100m 長く出た影響で最後(0'20"0)を括弧付きで書きました。

今年はタイムが昨年より 48 秒速く走れました。2.5km まで先頭に付いていくことができ、そこから集団とは離れましたが、その後は落ちてきた何人かの選手を追い抜くことができました。今回はとにかく走りに集中しており、周りの歓声も途中からはほぼ聞こえず、タイムもほぼ気にせず走れました。先頭の選手のタイムは去年とほぼ変わらないことから、去年に比べるいい走りができたのだと思います。また東北学連選抜歴代 4 位という結果でした。来年はさらにいい走りをする為 1 年間努力を続けたいと思います。

また、東北学連選抜チームは 21 位と最下位でした。今回は他地区に比べて東北地方の実力の無さが如実に現れました。私自身、東北地方のレベルを上げられるようこれからも精進していきます。

最後に、現地およびテレビの前で応援をして下さった皆様、誠にありがとうございます。

第 6 区 齊藤 寛峻(D3)

今回の出雲駅伝で最終区間 6 区(10.2km)を走らせていただきました。選抜メンバーに入るのはこの 9 年間で初めてで、当然出場するのも初めてでした。

競技的には(チームとして)最下位は回避するという目標を持って臨みましたが、個人的には最初で最後なので楽しむということも大きなモチベーションでした。

当日はやや暑さはありませんでしたが夏のようにタイムに大きく影響するような環境ではなく風の悪影響も少なく、比較的良い気候の中でのレースとなりました。襷を受けた時点では最下位で前もギリギリ見えるかというほど距離が空いていましたが、いつも通りの落ち着いた走りを心がけました。しかし前との差は詰まることなほそのまま最下位でのゴールとなってしまいました。個人としては区間 17 位 (21 人中)、タイムは 32' 20" (10km 換算で 31' 51") と、シーズン前半の成績を考慮するとまずまずでしたが、中長期的な練習状況等を考慮すると良いとも言い切れない微妙な結果でした。特にチーム成績については東北地方として他の地方との差を突きつけられる厳しい結果だったと思います。

しかし個人的に今大会はとても良い印象が残っています。出雲は山や川など自然の風景が広々と広がるのどかな場所で、個人的にとっても好みの地でした。また出雲大社や出雲ドーム、島根ワイナリー(中継所)などの象徴的な観光スポットもその風景にマッチしていて魅力的でした。そのような景色の中を走れたのは本当に爽快でした。特に大社前の鳥居から大鳥居までの景色、大社周辺やゴール付近の沿道からの声援は圧巻で、非常に印象深かったです。また他大学の選手と交流したり、チームを組んだりすることもとても新鮮でした。自校以外の人とチームを組むのは大学に入ってから(記憶の限り)学部1年以来2回目だったので良い思い出になりました。(最後のさよならパーティに参加せず帰ってしまったのが非常に心残りでしたが。)

正直なところ、(七大、全日、その他の自校選手が多数出場する大会や自己ベストなどによりフォーカスしており)出雲駅伝に関してはこれまでそれほど真剣には出場を狙ってこず、また自分の競技力・(練習継続の)安定性から出場できるとも思っていませんでした。しかし今回幸運にも出場の機会をいただき良い思い出を作ることができて本当に良かったと思っています。こうして最後の機会に出場できたことに感謝します。

◎ 第36回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(10/28)・仙台市

東北学連選抜として栗原(M1)、飯田(4)が出場しました。出場選手からのコメントを紹介します。

第4区 飯田 夏生(4)

東北学連選抜チームに選出していただき、4区(4.8km)を走りました。チームとして最後まで襷を繋ぎ切ることに、総合記録2:20:00を目標に臨みました。個人では18'36"で区間25位、総合では2:23:30で26位相当、また第4中継所で繰り上げスタートとなってしまう目標は達成することができませんでした。優勝の名城大学との差は18分、25位の新潟医療福祉大学とも1分20秒差で全国とのレベルの差を痛感させられる結果となりました。

個人では単独走となることが予想できていたため、ひとりでも目標ペースで落ち着いて走ることができるように調整を行いました。しかし、当日、大舞台の雰囲気から飲まれ冷静さを欠き、無謀なペースで突っ込んだ入りをしてしまいました。コースの細かいアップダウンも影響し、後半はかなり苦しい走りでした。第4中継所に到着したときにはすでに繰り上げスタートとなった後で襷を繋ぐことは叶いませんでした。

この大会は私にとって陸上競技を始めた中学生のときから憧れの大会で、過去3大会は学連員として大会運営に関わったこともあり非常に思い出が強いものでした。そのような大会に競技生活最後の年に出場できたこと、感無量の一言に尽きます。一方で思うような走りが出来ず実力を発揮しきれなかったこと、襷を繋ぐことができず5区の唯さんを一人でスタートさせてしまったことに悔いが残ります。あてもなく自分の手に残ってしまった襷をしばらくは忘れられそうにありません。しかし、この悔しさもこの舞台に立つことができたからこそ得られたものであり、この経験をこれからの自分の糧にしていきたいです。中継線に立った時、10年間陸上競技を続けてきてよかったと思いました。

走る前にも多く激励の言葉をいただき、当日も沿道から声をかけていただきました。た

くさんの応援に支えられ苦しいながらも最後まで気持ちを切らすことなく走り切ることができました。また、補助員やアルバイトとして大会運営を支えてくれた部員や準備から大会運営に尽力してくださった学連員をはじめ関係者の皆様、多くの人の手によってこの大会が支えられていることを改めて実感しました。応援、並びに運営本当にありがとうございました。来年度以降のこの大会のさらなる発展と東北大学の選手がこの舞台上で活躍する姿を東北学連、陸上競技部の卒業生として楽しみにしています。

第5区 栗原 唯(M2)

10月28日に仙台市内で行われました第36回全日本大学女子駅伝において、東北学連選抜として5区(9.2 km)を走らせていただきました。

通称「杜の都駅伝」としても親しまれている本大会に出場することは、陸上を始めた頃からの夢であり、そのために東北大学の大学院に進学したといっても過言ではありません。特に、東北大学の側を通過し、杜の都の象徴とも言える定禅寺通りを駆け抜ける5区への憧れが強く、今回5区を志願させていただきました。最長区間であり、アップダウンのあるコースですが、自分の走るタイプに合った区間だったので落ち着いて走ることができると考えました。

学部時代はマラソンをメインに走っていたこともあり、競技に復帰してからこの駅伝までの短期間に、スピードを戻していけるかが大きな課題でした。目標としていたスピードまで戻らなかったことが大変悔やまれましたが、現在の実力通りの走りは出来たと思います。今回の悔しさや経験を今後に生かし、さらに力をつけていきたいと思います。

東北大学のある地元仙台での開催だったこともあり、9.2 km 絶えることのなかった声援が大変力になりました。襷は繋がりませんでしたが、この駅伝のために互いに切磋琢磨し練習に取り組んできた飯田夏生さん、院生ですが新入部員である私を支えてくださった長距離の皆さんをはじめとした部員の皆さんに本当に感謝しています。また、本大会に関わった方々をはじめ、OB・OGの皆様、沿道やテレビで応援してくださった多くの方々に心より感謝申し上げます。今後、さらに成長した姿を見ていただけるよう、後輩たちとともに精進して参ります。

◎ 秩父宮賜杯第 50 回全日本大学駅伝対校選手権大会 (11/4)

・熱田神宮(愛知)～伊勢神宮 (三重)

東北大学は 9 月 24 日に行われた東北地区予選を通過し、6 年連続 13 回目の本大会出場となりました。今年は主力の内数名が卒業し、他の主力も怪我などに悩まされました。他の私立に勝つという目標も達成できず、苦しい駅伝となりました。出場した選手のコメントを掲載します。

第 1 区 松浦 崇之(3)

3 度目の全日、三大駅伝 4 度目の 1 区

この度、秩父宮賜杯第 50 回全日本大学駅伝対校選手権記念大会が行われ、私は 1 区を走らせてもらいました。まず結果は以下の通りです。

1 区 9.5km 28'48(23 位/27 位)

ラップ(2'51"2 2'57"7 2'59"7 3'05"1 3'05"9 3'04"5 3'03"5 3'03"6 3'06"6 1'31)

レース展開は以下の通りです。

先頭が最初の 400m をハイペースで入り 1km を 2'46 ぐらいで通過したため、1km も満たないうちについていけませんでした。。後ろには医福と大経がいましたが、3km 時点で結構離れていたの、一緒に走るといことは考えられませんでした。そこからは、ほぼ単独走で、4km 前に札幌学院大学、4km すぎに京産大を抜いたのですが、そこからは前との差がなかなか詰まらず、皇學館と愛工との距離がだいたい 100～200m 離れている関係を保ってゴールしました。当初の目標は 4km まで先頭に食らいついて、5km を約 14'50 で入りそこから粘り、28'30～29'00 でゴールというものでした。

当初の目標とは違うレース展開になりましたが、目標以内のタイムで収めることができました。個人としては今の実力で言えば満足する結果で終わりました。

チームとしては、1 校でもいいので、私立大学に勝つという目標でした。しかし、27 位と最下位で悔しい結果になりました。来年も全日に連続出場し、1 校でも多くの大学に勝てるよう、ここから 1 年間チーム一同努力していきます。

最後に、東北大学が全日本大学駅伝に出場するに当たって、ご支援してくださった部員の皆様さらに OBOG の皆様に感謝を申し上げたいと思います。OBOG の皆様のご支援があるおかげで、選手は万全な状態でこの大会を迎えられました。部員の皆様のご支援があるからこそ、日々努力を続けられます。選手一同感謝しています。誠にありがとうございます。これからも長距離部員一同、長距離パートがより良いパートになる為に、試行錯誤をして努力をしていきますので、これからもどうかご支援よろしくお願ひします。



第 2 区 酒井 洋輔(4)

3 度目の伊勢路

この度 2 区を走らせていただきました。2 区を走るのは去年に続いて 2 回目ですが、今

年からコースの距離配分が大きく変わり、2区は2km程短くなりました。ただコースの特性としてはあまり変わらず、アップダウンの少ない単調な直線コースです。コースの難易度としては平易な部類に入ると思われ、先輩方が後半の長く険しいコースを走ってくださったことに関しては深い感謝の念に堪えません。

レース前の調子というのは2週間前に季節の変わり目の風邪をひいてしまい、チームメイトには多大な心配をかけました。しかし1週間前には体調も本調子に戻り、なんとか走れそうだということでPCの嶋田からはGOサインをもらいました。

迎えたレース本番は心配されていた雨もあまり降らず、曇り気温低め湿度高めという絶好のレース日和で、体調も足の動きも良く思われました。しかし2週間前の追い込み時期に体調不良のせいで練習が積めなかったことを考慮して、レースの入りは3分10秒を絶対に切るまいと心に決めていました。

レースが始まると1区の松浦が他地区の私大の選手に全く引けをとらない素晴らしい走りを見せ、とても良い位置でタスキを運んでくれました。速すぎるあまり心の準備が十分にはできなかつたほどでした。松浦が好走してくれたという高ぶり、全日独特の雰囲気にも呑まれてしまい想定ペースを大きく上回る3分5秒で最初の1kmを入ってしまいました。これではいけないとペースを戻し、3分12秒/kmまで落としましたが、この最初の1kmが後半にとっても響くこととなりました。8kmぐらまでは3分12秒/kmで押せていたのですが、9kmぐらいからガクッとペースが落ち、一時は3分18秒/kmまで落ち込みました。しかしそこで応援に駆けつけてくれた陸上部の方々が見え、元気付けられたことでなんとかゴールまでたどり着くことができました。今回のレースほど応援の力を実感したことはありませんでした。はるばる遠方から来てくださったOBの方々、そして現役部員の方々、本当にありがとうございました。また今回伊勢路を無事に終えることができたのも、金銭的な面やコースの下見にご協力いただいたOB・OG、保護者の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。



第3区 立野 佑太(3)

今回、全日本大学駅伝で3区を走らせていただきました。今年も予選会には怪我の影響もあり参加出来ず、長距離のみんなにこの舞台まで連れてきてもらったので、陸上部の代表として精一杯走りました。レース内容は序盤から思うように体が動かず、苦しい走りとなりました。途中で後続の選手に抜かれた時に、リズムを少し取り戻してなんとか持ちこたえ、繰り上げ30秒前にギリギリ繋ぐことができました。タイムも予定より遅く、また区間順位も最下位と悔しい結果となりました。また来年、この舞台に強くなって戻ってきたいと思います。サポートしてくれた長距離や、現地やテレビで応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。

第4区 早坂 謙児(M2)

4区を走りました。M2の早坂です。

あっという間の11.8kmでした。

前半の四日市付近では、先輩、後輩、同期の応援に後押しされ、中間付近では、OBの皆様の応援に後押しされました。雨というコンディションの中、速く入りすぎることなく、ペースをコントロールできたことは良かったと思います。前半は抑えて力をためて、7kmから8kmあたりで、まだいけるという感覚を得て、振り絞って走りました。

結果は、昨年よりも平均ラップタイムは落ちてしまいましたが、後ろから医療福祉大が迫って来るプレッシャーの中での単独走でペースを崩さずに走れたのは成長を感じました。

文系なのにちゃっかり院に進んで、全日を二回も走らせてもらって幸せでした。来年もまた、予選会のプレッシャーがあると思いますが、熱田伊勢間弾丸応援ツアーをさせてほしいなと思います。そして、第5中継所で東北大の襷を繋いでください。

対抗戦で中々結果を出すことは出来ませんでした。充実した6年間でした。本当にありがとうございました。

第5区 松田 将大(4)

初の全国大会初の全日となりましたが結果としては区間最下位、タイムとしても平均ラップ3'26となり、チームの足を大きく引っ張ってしまいました。

まずは力を出し切ることを第一の目標としていたつもりでしたが、一口に出し切ると言っても、単独走でのペースの維持の仕方や後半のスパートの体の使い方などまだまだわからず、駅伝やロードレースの経験の足りなさが露呈するような走りになってしまいました。

来年は予選会七連覇の戦力としてチームを引っ張れる力をつけて、本戦では今回の悔しさを晴らせるように中距離種目と両立しながらも努力していきたいと思います。

仙台や各地から応援に来てくださった皆さま、日頃支えてくださっているOBOGの皆さま、本当にありがとうございました。次年度のチームにもぜひご期待ご声援のほどどうかよろしくお願いします。

第6区 木村 秀(2)

今年度、全日本大学駅伝予選会および本戦6区を走らせていただきました。

全日本大学駅伝は、自分が東北大学に入学して、必ず走りたいと思ってきた駅伝です。昨年の全日本では、昨年でご卒業なさった南雲さん(6区)の付き添いをして、全日本大学駅伝という大舞台への憧れを強めました。だからこの1年は、全日本で走ることを目指して練習を積み上げてきました。

もちろん、自分が必ず走るという気持ちも強かったのですが、春先のトラックシーズンで東北地区の他の大学に力が及ばず、今年の予選会突破に不安を感じるのに伴って、東北大のユニフォームを必ず伊勢路で走らせるんだという気持ちが勝りました。

自分にとって初めての舞台、かつ自分が今まで走った中でも一番大きな試合です。中学高校と陸上を続けてきて、駅伝で上位大会に駒を進めたことがなかったので、全日本の6区を走らせていただくことに大きな喜びを感じました。その一方で今年の全日本大学駅伝の東北大の目標である、「他の私立大学に一校でも勝つこと」の達成ということを見ると、その責任というものも強く感じました。自分の走りがチーム全体の結果に大きく影響するため、非常に身が引き締まる思いでした。だからとにかく今年の全日本では、自分のすべき走り、果たすべき役割に対して余すことなく全力を尽くし、必ずチーム目標を達成しよ

うと思いました。

11月4日(日)、昨年とは打って変わって雨が降る中での駅伝でした。今年のトラックシーズンは暑さでうまく走れないこともあったので、その不安がなく、プラス思考で試合に臨めました。選手控え場所では、周りは強豪校の選手ばかりで緊張はしましたが、あまり固くならず、比較的落ち着いて集中できたと思います。

先頭の東海大学の第五中継所通過が予定より数分早く、その15分後、午前11時9分52秒、6区の繰り上げスタートとなりました。スタート直前は、とにかく自分のすべき走りを出し切ると自分に何度も言い聞かせました。

第五中継所での早発は東北大だけでしたので完全な単独走でしたが、その30秒ほど前に前の新潟医療福祉大がスタートしていて、前の見える位置で走ることになりました。最初の1kmはどうしてもチーム目標のことが意識されてしまい、少し焦って走ってしまいましたが、それが大きく影響する前になんとか落ち着き、冷静な走りに戻りました。6区は他の区間に比べてアップダウンが少なく平坦な大通りが続くので、リズムよく落ち着いて走りやすいコースでした。津市の大通りということもあり、沿道の応援が止まず、どこを走っていても応援が聞こえてきました。2kmあたりから1.5kmおきぐらいで東北大の幟が見え、チームメイトの応援があり、大きく背中が押されました。パートを問わずたくさんの応援が来ていただいて、本当に嬉しかったです。

そのまま5~6kmくらいまで落ち着いてリズムよく走ることができ、悪くないペースでしたが、6kmを過ぎたあたりで徐々に脚が重くなってきて、なかなかペースが上がらないことに焦りや不安がちらつき、さらに前の医療福祉大の選手がなかなか近づかない、差がジリジリと広がっていくことへの精神的なダメージから、走りが苦しくなっていました。応援の力もあり、力を絞ってペースを保って走ることはできていたものの、中間地点を過ぎたあたりから現れる何本かの橋がかなり辛く感じられました。ラスト2km~3kmはチームのために1秒でも早く中継所に着こうということだけを考えて走り、本当に苦しかったのですが、力を最後まで絞りきりました。

結果としては12.8km 43'11"で、区間最下位と、前のチームに差を広げられ、チーム目標から遠のいてしまう走りをして、チームに大きく迷惑をかけることになりました。チームとしての結果も、他の私立大に勝つことができず、悔しいものとなりました。全力を尽くし、大きな失敗をしていないにも関わらずこの走りですから、自分の実力不足を突きつけられました。この差を埋めるのはすぐには難しいかもしれませんが、必ず成長し、来年、再来年と予選会連覇を重ね、何度も何度も挑戦し続け、リベンジを果たします。そのためにまた毎日を大切に過ごして、一つ一つ力を積み上げていきます。

初めての全日本という大舞台で、12.8kmは終わってみるとあっという間でした。陸上を始めてから今まで走った中で一番苦しい試合でしたが、一番楽しい試合でもありました。選手として走りでチームに貢献できる喜び、沿道の応援の力、全国レベルの強豪校の選手たちと同じ舞台で走るという誇りを強く感じられました。この気持ちは実際に走ってみないと感じられない貴重なもの



で、今後の自分の陸上競技への取り組みに深く影響を与えるものだと思います。

また、陸上競技は一人でやるものではないのだと改めて感じた試合でもあります。自分が走れたのは、サポートや応援の方々、大会に向けての事務的な取りまとめなど、数多くの仕事があって、そこに全員が全力を尽くしたからです。そういった意味でも、この大きな大会に挑むことができる東北大というチームに感謝したいと思います。

何より、このような経験ができたのは、自分たちが最高の環境で陸上競技に取り組むことができるように、常日頃から OBOG の方々が手厚くご支援、ご指導くださっているからです。本当にどうもありがとうございます。今後とも変わらぬご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。

第7区 本田 雄生(M2)

苦しい走りとなりましたが、最終的には区間 25 位と、個人としては事前に立てていた目標を達成しました。しかし、やはり上位と比較すると実力不足を感じるレースとなりました。加えて、チーム全体では最下位と、チームの総合力の差が如実に現れた結果となり、悔しい大学駅伝となりました。個人としてももう少し速ければ、調子を合わせることであれば、と後悔が残りますが、この悔しさを糧にし、また一段階上を目指して努力していきたいと思います。

第8区 齊藤 寛峻(D3)

今回の全日本大学駅伝は例年に比べ、予選突破に壁がありました。タイム的にも経験的にも力のある複数の有力選手の中長期的な戦線離脱や他大の成長からシーズン前半のトラックレースでは明らかに他大に押され、連続出場の過去6年間では間違いなく最も危ない状況でした。個人的にも予選会が海外出張の直後に入ってしまう難しい状況となってしまいました。しかし予選会では経験の少ないメンバーも多い中、誰一人崩れることなく最後まで走り切ることができ、個人的にも自分でも驚くほどよく走れてしまい、何とか今回も本戦への出場を決めることができました。正直なところ今年は（予選突破は）多分無理だろうなと思っていたので、このときは非常に安心するとともに半分は驚きもあったことを覚えています。

本戦を迎えるにあたり思い返してみると、これまで連続出場した5回では毎回チームの目標として総合タイムの部記録更新を目標に掲げてきましたがいずれも達成できず終わってきていました。そのため個人的には（おそらく）最後の対校戦になる、8,9年ぶりの自己ベスト更新の波に乗って過去最高の走りをするといった事情もありましたが、気持ちとしては打倒私立大というチームの目標をより強く意識して臨むこととなりました。機械的にはかなり良い、おそらくこれまでの陸上人生最高の状態に調整することができました。しかし直後に海外出張を控えていたことから直前期の仕事が長引いて極端に睡眠時間を削ることになってしまい、そのダメージを残してレースを迎えることとなってしまいました。

当日は時折小雨が降る中でしたが暑さも寒さもなく、風もゆるやかな追い風で、良い気象条件となりました。また前述の通り練習状況や機械的な調子は良かったのですが、やはりだるさが強く残っており、また 19.7km は過去最長距離だったこともあって後半までい

つも以上に慎重に行こうと思ってスタートしました。

繰り上げで他の9チームと合わせて10人でスタートしました。自分の競技力的にもレースプラン的にも最初においていかれることは明らかだったため覚悟はしていましたが、想像以上にまたたく間に離されてしまいました（最初の1kmでおそらく15-20”程度離された）。そこから最後尾と大きく離れることはなかったもののそのまま状況は大きくは変わらず、8~9kmあたりまでは繰り上げ9番手を遥か彼方に見ながら単独走をすることとなりました。これに加え、前述したように体調に問題がある、（自分は時計をつけずに走るため）自分の正確なペースがわからない、自分の区間でチームの最終結果が決まるといったことや、そのような状況下で過去最長の19.7kmを走らなければならないという状況から、前半~中盤にかけて精神面が極めて苦しいレースとなりました。しかし9kmあたりでようやく前との差が少しずつ詰まり始めていることがわかって少し自信を取り戻し、自分のペースを維持しました。その後は一気に差がつまり、14kmあたりで4人の集団に追いつきました。この辺りから脚の動きは悪くなってきたものの、15km地点でまだ最後まで行く余力がありそうだったためそこからは少しずつビルドアップして前の新潟医療福祉大、更には名古屋大を追い上げていきました。しかしラスト1.5km、あと一步のところまで差し込みがきてしまい、前に追いつけずにややペースを落としてゴールすることとなりました。

結果的にはチームは前と約3分差の最下位でした。今回もチームの目標には届かず、また最下位となってしまったことは残念でした。個人はタイム1°03'08" (3'12"3/km)、区間23位(27人中)でした。タイム的には自分としてはかなり良い方だと思っています。おそらく自分の陸上人生でも最も良い結果だったと思います。また前半~中盤に焦らず適正なペースで刻み終盤まで良いペースを維持するという自分らしい走りができることも良かったです。ただ最後に万全に調整しきれなかったこと、チームの目標達成に到達できなかったことは残念でした。

しかし最後にまた全日を走れたこと、特に8区を走れたことは自分にとってとても幸せなことでした。8区は前半ののどかな風景から中盤の街中、後半の伊勢神宮エリアと様々な景色が楽しめることや、度会橋、大鳥居、伊勢神宮などの魅力的な景色の中を駆け抜けることができることから、元々一番走ってみたいと思っていた区間でした。実際に走ってみて、大鳥居や伊勢神宮エリアの風景、ゴール付近の沿道の声援は圧巻で、非常に印象深かったです。そういったコースで後半に格上の選手を追い上げて最後まで快調に突き進んでいけたこともとても楽しかったです。また今回は他パートも含め多数の部員が応援に駆けつけてくれました。また卒業からもうしばらく経っている中で同期や学年の近い先輩、後輩も応援に来てくださいました。そのような皆さんからの応援はとても心強く力になるとともに本当に嬉しかったです。このような舞台上で走らせていただいたことには本当に感謝しています。ありがとうございました。

全日本大学駅伝 反省

前長距離パート長 嶋田拓郎

今シーズン序盤のトラックシーズンでは主力に怪我や不調がみられ、昨年までと比べると不本意な成績に終わってしまいました。七大戦が終わり、このままではいけないと言う

意識が部員間に広まっていき、高い意識を持ち練習に取り組む部員が増えていったように感じます。

今大会の出場チーム中、東北大学は唯一の国公立大学のチームでした。国公立大学として一校でも私立のチームに勝つことを目標に掲げ、東北の国公立大学でもこれだけできるということを全国の舞台上で示したいという気持ちで臨みました。

今年の全日から各区間の距離が変更となり、どのような区間配置で挑むべきか悩みましたが、部員皆で意見を出し合い、序盤から主力を配置し、良い流れを作ることを狙いました。4区までの前半区間に経験のある主力を置き、5区6区の全日初出場の2人は我慢の区間と位置づけ、7区8区は長い距離に強い上級生を配置しました。

レースは1区松浦が区間21位と良いスタートを切り、狙い通り4区までの前半区間で新潟医療福祉大に先行することができました。しかし、初出場の5区と6区で差をつけられてしまい、7区8区でも差を詰められず、24位の新潟医療福祉大に3分近い差をつけられ最下位という結果に終わってしまいました。選手は大きなプレッシャーがかかるなか全力を尽くしてくれましたが、他地区との力の差を見せつけられる結果となりました。7区8区の長い距離を走れる人材が不足していたこと、補欠、メンバー外を含めたチーム全体の層の薄さが露呈されました。

長い距離を走れる選手を増やすこと、チーム全体のレベルを底上げすることが今後の課題だと感じています。今年で主力の先輩方が部を離れることとなりますが1年間切磋琢磨し、また伊勢路に戻ってきます。

今大会出場にあたり多くのご支援、ご声援をいただきました。ありがとうございました。これからも部員一同がんばってまいります。今後ともご支援、よろしくお願いいたします。



◎ 第73回国民体育大会(10/5~9)・・福井県営陸上競技場

福井市で行われた国体で、成年少年男子共通4×100mRに宮崎(M2)、成年女子400mと成年少年女子共通4×100mRに佐貫(3)、成年女子やり投に山崎(1)が出場し、成年女子400mで佐貫が8位に入賞しました。リザルトと選手の感想を紹介します。

成年少年男子共通4×100mR

・宮崎 幸辰(M2)-國吉-藤井-高杉
予選 4組3着 40"64
準決勝 1組6着 40"29

最後のレースを岩手のユニフォームで、そして県新記録で終わることができて、光栄でした。そして、チームスタッフ、リレーメンバーと一緒に仕事できたことに深く感謝申し上げます。最高のメンバーでした。

走りについては、日本インカレ以上の傑作です。文字で読むより、YouTubeに上がっている動画で感じてみてください。これ以上の傑作はできません。

6年間、ありがとうございました。

成年女子400m

・佐貫 有彩(3) 予選 2組3着 54"98(部記録)
決勝 8着 56"16

成年少年女子共通4×100mR

・佐貫-相馬-児玉-成田 予選 4組3着 46"73
準決勝 1組7着 47"21

今回の福井国体では9月の全日本インカレに引き続いて、予選を通過し決勝の舞台で走ることが出来ました。

予選では申請タイムが下の方だったので前半からハイペースで入って逃げ切り、自己ベストを出すつもりでレースに臨みました。レースでは狙い通り300m通過付近までは1・2着の選手と同じくらいで走れていましたが、ホームストレートに入ってから脚が動かず置いていかれてしまいました。ただ、前半はイメージ通りのレースができたことと国体という大きな舞台で自己記録を0.5秒近く更新出来たのはよい収穫だったと思います。決勝では前半から上位選手達のスピードについて行けず予選よりもタイムをかなり落とす形で8位となりました。

今大会もラウンドを勝ち進むことはできたが次のラウンドで勝負できるようなタイムで走ることができませんでした。福井国体を通して多くの課題を見つけたので今後の冬季練習で修正し、来シーズンにつなげたいです。

最後に今大会に出場するにあたって支援をしてくださった皆さんや応援してくださった皆さん、本当にありがとうございました。

成年女子やり投

・山崎 香織(1) 決勝 16着 42m38

◎ 第 69 回東北地区体育大会陸上競技(9/29～30)・・仙台市陸上競技場

台風が接近する悪天候の中、2 日間にわたって開催されました。各種目 8 位以上の選手の結果を掲載します。

男子 100m	1 着	芦田 周平(2)	10"75(-1.5)
男子 200m	6 着	白鳥 海知(4)	22"16(+1.0)
男子 1500m	1 着	松田 将大(4)	4'02"43
	6 着	立野 佑太(3)	4'09"60
男子 5000m	1 着	松浦 崇之(3)	14'55"92
男子 110mH	6 着	勝井 友樹(4)	15"89(-0.7)
	7 着	鈴木 健大(2)	15"91(-0.7)
男子 400mH	1 着	加地 拓弥(2)	53"90
男子 4×100mR	7 着	山田将(3)-芦田(2)- 白鳥(4)-高須(2)	42"23
男子 4×400mR	7 着	角田(3)-羽根田(3)- 佐藤雄(1)-加地(2)	3'23"54
男子走高跳	4 着	山下 一也(4)	1m95
	7 着	高橋 潤 (2)	1m85
男子棒高跳	5 着	藤井 大輝(4)	4m40
	6 着	赤星 栄治(2)	4m20
男子砲丸投	7 着	大野 誠尚(1)	11m34
男子円盤投	8 着	大野 誠尚(1)	29m25
男子ハンマー投	2 着	宮本 貴広(2)	28m45
女子 200m	1 着	佐貫 有彩(3)	24"48(+1.5)
女子 800m	3 着	上條 麻奈(3)	2'17"37
女子 5000m	7 着	阿部 春花(4)	19'56"40
女子 100mH	7 着	泉屋 咲月(2)	16"35(-0.4)
女子 400mH	8 着	柄澤菜々美(2)	1'12"16
女子走高跳	3 着	中村真璃子(4)	1m55
女子円盤投	3 着	田中 紀香(1)	35m48(部記録)

◎ 第 47 回東北学生陸上競技選手権大会 (10/12~14) ・ND ソフトスタジアム山形

10 月にしては暖かい陽気の中、東北大学各選手健闘を見せました。各種目 8 位以上の選手の結果を掲載します。

男子 100m	4 着	藤井 佳祐(M1)	10"98(-0.9)
男子 200m	5 着	白鳥 海知(4)	22"08(-0.6)
	8 着	藤井 佳祐(M1)	22"35(-0.6)
男子 800m	8 着	谷口 尚大(2)	1'59"48
男子 1500m	1 着	松田 将大(4)	4'00"91
男子 5000m	1 着	松浦 崇之(3)	14'54"33
	5 着	齊藤 寛峻(D3)	15'19"02
	8 着	立野 佑太(3)	15'33"18
男子 10000m	1 着	齊藤 寛峻(D3)	31'09"31
男子 110mH	5 着	加地 拓弥(2)	15"41(+0.5)
	7 着	楠木 啓介(M1)	15"53(+0.5)
男子 400mH	3 着	加地 拓弥(2)	54"09
男子 10000mW	1 着	中川 岳士(M1)	43'40"83(大会新)
男子 4×100mR	1 着	白鳥(4)-芦田(2)- 大衡(5)-藤井佳(M1)	41"13(大会新)
	7 着	山田球(3)-羽根田(3)- 倉田(3)-山田将(3)	43"55
男子 4×400mR	7 着	田口(2)-井戸端(2)- 八巻(2)-加地(2)	3'37"30
男子棒高跳	3 着	山下 一也(4)	1m99
男子走幅跳	6 着	諸田 直樹(1)	6m91(+2.5)
女子 800m	3 着	小川 明音(1)	2'21"84
	7 着	加藤 ひより(2)	2'24"55
女子 1500m	4 着	飯田 夏生(4)	5'06"02
女子 5000m	3 着	飯田 夏生(4)	19'03"33
女子 10000mW	1 着	青木 まひろ(1)	52'47"57(部記録)
女子走高跳	2 着	中村 真璃子(4)	1m60
女子棒高跳	2 着	渡邊 朝美(M2)	2m10
	3 着	峯村 遥香(1)	1m80
女子三段跳	4 着	渡邊 朝美(M2)	11m04(+0.2)
女子砲丸投	6 着	田中 紀香(1)	32m29
女子ハンマー投	5 着	田中 紀香(1)	22m59(部記録)
女子七種競技	3 着	佐貫 有彩(3)	3932 点

◎ OB・OG 対現役対校戦(10/20)・・評定河原競技場

評定河原グラウンドで10月20日(土)にOB・OG戦が開催されました。結果を掲載します。

【男子 トラックの部+総合】

順位	氏名	100m(秒)	100m得点	1500m(秒)	1500m得点	400m(秒)	400m得点	走最高得点	総得点
1	山下一也	11.12	835	0	0	0	0	835	2017
2	大野誠尚	11.52	749	0	0	0	0	749	1938
3	藤井佳祐	10.86	893	0	0	0	0	893	1907
4	岩波発彦	11.41	772	0	0	53.62	656	772	1788
5	加地拓弥	11.29	798	277.33	698	53.92	644	798	1782
6	倉田真樹	11.32	792	338.57	359		0	792	1758
7	白鳥海知	10.47	983	0	0	0	0	983	1746
8	諸田直樹	11.42	770	0	0		0	770	1726
9	鈴木健大	11.18	822	311.57	496	54.15	634	822	1687
10	佐藤大斗	11.88	676	351.01	303	0	0	676	1604
11	勝井友樹	11.2	818	0	0		0	818	1584
12	羽根田佑真	11.18	822	338.02	362	53.34	668	822	1533
13	鈴木碩通	11.65	722	307.46	519	0	0	722	1530
14	村松兼志	11.74	704	0	0	0	0	704	1517
15	高橋潤	12.24	606	333.11	385		0	606	1505
16	角田陽	11.67	718	308.97	510	54.68	613	718	1477
17	八巻隼人	11.39	777	296.31	582	0	0	777	1438
18	松岡恭平	12.18	617	318.62	458	61.45	366	617	1427
19	佐々木玲	0	0	333.93	381	58.06	483	483	1426
20	古川楓	11.84	684	0	0	0	0	684	1424
21	二ノ神遼	11.72	708	0	0		0	708	1407
22	高安弘人	12.35	585	0	0		0	585	1358
23	山田将斗	11.39	777	0	0	0	0	777	1349
24	金田大輝	12.53	552	263.06	792	56.4	545	792	1326
25	川島啓	11.57	739	0	0	52.59	700	739	1320
26	計良衛	11.65	722	334.22	380	55.53	579	722	1290
27	片桐大智	11.48	758	320.85	447	53.83	648	758	1285
28	大坂天心	0	0	328.78	406	0	0	406	1271
29	宮本貴広	12.96	476	368.88	230		0	476	1262
30	吉田真人	0	0	272.7	728		0	728	1231
31	谷口尚大	11.92	668	0	0	0	0	668	1215
32	渡辺智輝		0	346.28	324		0	324	1190
33	佐藤泰河	0	0	331.72	392		0	392	1106
34	佐藤宏夢	12.2	613	0	0		0	613	1078
35	竹内喬亮	0	0	0	0	61.27	372	372	1070
36	彦坂幸毅	13.62	369	0	0		0	369	1066
37	脇田陽平	0	0	272.7	728	0	0	728	996
38	久保正樹	13.46	394	339.16	356		0	394	975
39	臼井隼人		0	269.9	746		0	746	970
40	秋葉湧太		0	0	0		0	0	853
41	藤井大輝	11.61	731	0	0	0	0	731	731
42	根谷温	13.22	432	378.32	195		0	432	699
43	松岡陽太	12.84	496	0	0	0	0	496	685
44	赤星栄治	12.08	636	338.57	359		0	636	636
45	寺島智春	0	0	343.24	338		0	338	618
46	小川遼太郎	0	0	453.06	17	0	0	17	553
47	松田将大	12.73	516	0	0	0	0	516	516
48	真山隆徳	16.4	60	353.3	293	0	0	293	509
49	川口航汰	0	0	0	0	0	0	0	474
50	上村健之	0	0	0	0		0	0	427
51	古俣諒大	0	0	0	0		0	0	397
52	嘉津山拓登		0	0	0		0	0	320
53	石垣雅生		0	0	0		0	0	288
54	及川拓郎	16.62	46	453.06	17	90.57	0	46	267
55	小林文士		0	0	0		0	0	257
56	牧野雅紘		0	0	0		0	0	234
57	立野佑太		0	0	0		0	0	189
58	三浦慧士		0	0	0		0	0	115
59	山岸忠相	0	0	0	0		0	0	39

【男子 フィールドの部】

順位	氏名	幅(cm)	幅得点	高(cm)	高得点	跳最高得点	砲丸(m)	砲丸得点	やり投(m)	やり得点	投最高得点
1	山下一也		0	195	759	759	8.94	423		0	423
2	大野誠尚	630	653	170	545	653	10.82	536		0	536
3	藤井佳祐		0	185	671	671	7.59	343	23.27	207	343
4	岩波発彦	539	460		0	460	7.32	327	47.73	556	556
5	加地拓弥	622	636	170	545	636	6.86	300	33.37	348	348
6	倉田真樹	585	555	155	427	555	7.36	329	37.8	411	411
7	白鳥海知		0	155	427	427	7.47	336		0	336
8	諸田直樹	671	747		0	747		0	23.46	209	209
9	鈴木健大	578	541	145	353	541	7.27	324	23.47	209	324
10	佐藤大斗	610	609		0	609	7.18	319		0	319
11	勝井友樹		0	160	465	465	6.88	301		0	301
12	羽根田佑真	547	476	145	353	476	5.74	235	24.82	228	235
13	鈴木碩通	568	520		0	520	5.87	242	29.1	288	288
14	村松兼志	577	538	150	390	538	6.44	275	19.8	160	275
15	高橋潤	503	389	185	671	671	5.63	228		0	228
16	角田陽	542	466	150	390	466	6.68	290	29.5	293	293
17	八巻隼人	531	444	135	284	444	5.43	217	22.85	201	217
18	松岡恭平	489	362	170	545	545	6.26	265	24.77	227	265
19	佐々木玲	542	466		0	466		0	42.35	477	477
20	古川楓	550	482		0	482		0	26.97	258	258
21	二ノ神遼	548	478		0	478	5.5	221	14.95	96	221
22	高安弘人	580	545		0	545	5.62	228		0	228
23	山田将斗		0	135	284	284	6.66	288	22.92	202	288
24	金田大輝	473	333	120	189	333	5.16	201	8.1	12	201
25	川島啓	490	364	130	251	364	5.44	217	16.63	118	217
26	計良衛	400	207	150	390	390	4.76	178	19.87	161	178
27	片桐大智	463	314		0	314		0	23.7	213	213
28	大坂天心	612	614	0	0	614	0	0	26.45	251	251
29	宮本貴広	466	320		0	320	8.6	403	41.57	466	466
30	吉田真人	447	286	0	0	286	5.44	217	0	0	217
31	谷口尚大	473	333		0	333	5.38	214		0	214
32	渡辺智輝		0	170	545	545		0	31.5	321	321
33	佐藤泰河	481	347	0	0	347		0	34.7	367	367
34	佐藤宏夢		0	135	284	284	4.8	181		0	181
35	竹内喬亮	544	470		0	470	5.63	228		0	228
36	彦坂幸毅	471	329	0	0	329	8.01	368	29.26	290	368
37	脇田陽平		0	110	132	132	4.02	136		0	136
38	久保正樹	473	333	0	0	333	5.97	248		0	248
39	臼井隼人		0		0	0	5.56	224		0	224
40	秋葉湧太		0	155	427	427	8.99	426		0	426
41	藤井大輝		0		0	0		0		0	0
42	根谷温		0		0	0		0	27.66	267	267
43	松岡陽太		0	120	189	189		0		0	0
44	赤星栄治		0		0	0		0		0	0
45	寺島智春	310	79	0	0	79	5.15	201		0	201
46	小川遼太郎	515	412		0	412		0	17.14	124	124
47	松田将大		0		0	0		0		0	0
48	真山隆徳	290	55	0	0	55	4.46	161		0	161
49	川口航汰	546	474		0	474		0		0	0
50	上村健之		0	155	427	427		0		0	0
51	古俣諒大		0		0	0	8.5	397		0	397
52	嘉津山拓登		0		0	0		0	31.43	320	320
53	石垣雅生		0		0	0		0	29.1	288	288
54	及川拓郎	0	0	0	0	0	5.51	221		0	221
55	小林文士		0		0	0	6.12	257		0	257
56	牧野雅紘		0		0	0	5.73	234		0	234
57	立野佑太		0		0	0		0	21.95	189	189
58	三浦慧士		0		0	0		0	16.43	115	115
59	山岸忠相	274	39	0	0	39		0		0	0

【女子トラックの部+総合】

順位	氏名	100m(秒)	100m得点	1500m(秒)	1500m得点	400m(秒)	400m得点	走最高得点	総得点
1	佐貫有彩	12.44	871	0	0	57.95	784	871	1766
2	渡邊朝美	13.95	613	341.7	573		0	613	1680
3	上條麻奈	14.32	556	289.82	896	63.74	558	896	1656
4	中村真璃子	13.29	721	0	0		0	721	1638
5	泉屋咲月	13.88	624	0	0		0	624	1477
6	山崎香織	14.34	553	0	0		0	553	1416
7	加藤ひより	15	458	316.11	724	68.6	395	724	1354
8	田中紀香	15.3	417	0	0		0	417	1324
9	小川明音	13.59	671	336.25	604	62.87	590	671	1218
10	柄澤菜々美	14.54	523	0	0		0	523	1021
11	阿部春花	15.54	386	327.1	657		0	657	970
12	星屋美優	15.06	450	0	0		0	450	790
13	卜部仁美	16.83	237	335.44	609		0	609	766
14	神谷真帆	0	0		0		0	0	753
15	須田桜		0	317.6	715		0	715	715
16	峯村遥香		0	354.34	505		0	505	674
17	青木千景	17.02	218	358.36	484		0	484	671
18	佐々木千肅	0	0	0	0		0	0	641
19	岸田晶穂	18.2	116	370.71	422	67.89	417	422	636
20	吉村梢	13.88	624		0		0	624	624
21	佐久間美帆	0	0	0	0		0	0	510
22	鈴木日向子	0	0	0	0		0	0	240
23	橋本悠実		0	0	0		0	0	227
24	古川咲良		0	0	0		0	0	152
25	吉田歩		0	450.18	122		0	122	122
26	大槻あすみ	19.89	22		0		0	22	22

【女子フィールドの部】

順位	氏名	幅(cm)	幅得点	高(cm)	高得点	跳最高得点	砲丸(m)	砲丸得点	やり(m)	やり得点	投最高得点
1	佐貫有彩	488	528	130	410	528	7.49	367	17.84	250	367
2	渡邊朝美	492	539	145	567	567	9.52	499	31.2	500	500
3	上條麻奈	449	427	130	410	427	5.59	246	22.31	333	333
4	中村真璃子	479	504	150	622	622	6.36	295	10.72	120	295
5	泉屋咲月	422	360	140	513	513	6.45	301	22.71	340	340
6	山崎香織	340	181	130	410	410	8.82	453		0	453
7	加藤ひより	426	370	120	313	370	5.81	260	16.7	229	260
8	田中紀香	418	351	120	313	351	10.39	556	18.69	266	556
9	小川明音	401	311	110	223	311	5.42	236	11.24	129	236
10	柄澤菜々美	376	255	110	223	255	5.53	243	13.15	164	243
11	阿部春花	325	152		0	152	4.23	161		0	161
12	星屋美優	295	100		0	100	5.49	240		0	240
13	卜部仁美		0		0	0		0	12.78	157	157
14	神谷真帆	435	392	120	313	392		0	23.8	361	361
15	須田桜		0		0	0		0		0	0
16	峯村遥香		0		0	0	4.36	169	10.03	108	169
17	青木千景		0		0	0		0	14.44	187	187
18	佐々木千肅	365	232	130	410	410	5.35	231	10.8	121	231
19	岸田晶穂	266	56		0	56		0	12.8	158	158
20	吉村梢					0		0		0	0
21	佐久間美帆	410	332	120	313	332	4.5	178	10.98	125	178
22	鈴木日向子	369	240		0	240		0		0	0
23	橋本悠実		0		0	0		0	16.6	227	227
24	古川咲良		0		0	0		0	12.48	152	152
25	吉田歩		0		0	0		0		0	0
26	大槻あすみ		0		0	0		0		0	0

◎ 秋保マラソン(11/10)

仙台市太白区秋保地区周辺で今年度も秋保マラソンが開催されました。各部門の表彰者
とご参加いただいた OB・OG の皆様をご紹介します。

18km の部

- ・優勝 黒須 大地(2) 60'26"
- ・中距離 1 位 金田 大輝(1) 66'59"
- ・女子 1 位 飯田 夏生(4) 70'42"

9km の部

- ・優勝 荒田 啓輔(4) 29'53"
- ・準優勝 松田 将大(4) 31'03"
- ・短距離・ハードルパート 1 位 加地 拓弥(2) 31'58"
- ・フィールドパート 1 位 松岡 恭平(3) 36'53"
- ・女子 1 位 加藤ひより(2) 36'23"
- ・マネージャー 1 位 成尾 碧衣(1) 53'17"

4km の部

- ・優勝 赤星 栄治(2) 17'18"

参加した OB・OG の皆様(敬称略)

菅原質 (S42)、佐藤健二(S52)、佐藤源之(S55)、眞山隆徳(S56)、渡邊裕生(S62)

◎ 東北大学陸上競技部祝勝会(11/11) 東北大学北門会館 1F さくらキッチン

女子の七大戦二連覇、全日本 IC 男女同時入賞、全日駅伝 6 年連続出場など、今年の陸上競技部の輝かしい活躍を祝し、祝勝会を開催しました。男子部員 33 名、女子部員 24 名、社会人 16 名の 73 名が集いました。

藤田会長の挨拶の後、柴田幹事長の乾杯にて開宴となりました。しばし歓談の後、女子主将中村さん(4)の挨拶、七大戦での女子入賞者から一言いただきました。そして、全日本 IC で入賞した宮崎君(M2)、佐貫さん(3)、更には日本ジュニアで入賞した芦田君(2)から挨拶がありました。そして、全日本大学駅伝のメンバー、佐藤健二コーチから報告がありました。OB・OG の挨拶があり、佐藤部長による中締めにてお開きとなりました。

出席した OB・OG の皆様(敬称略)

藤田文夫(S46)、柴田清(S52)、佐藤健二(S52)、大浦譲(S54)、佐藤源之(S55)、眞山隆徳(S56)、
渡邊裕生(S62)、彦坂幸毅(H2)、安井誠一郎(H4)、伊藤繁和(H5)、久保正樹(H5)、
吉田真人(H9)、田附遼太(H25)、村田晃太郎(H26)、竹原大(H28)、高橋慧伍(H28)

◎ 自己ベスト更新者(9/25~11/11)

- ・男子 100m
芦田 周平(2) 10"59(+1.6) (東北総体)
山田 将斗(3) 11"39(+0.5) (東北総体)
佐藤 泰河(2) 11"62(+0.2) (仙台大競)
小林 丈士(2) 11"72(+1.5) (山形大競)
- ・男子 5000m
松浦 崇之(3) 14'43"23 (日体大記録会)
齊藤 寛峻(D3) 15'19"02 (個人戦)
田沼 怜(2) 15'45"25 (日体大記録会)
松田 将大(4) 15'47"80 (個人戦)
- ・男子 10000m
齊藤 寛峻(D3) 31'09"31
- ・男子 110mH
鈴木 健大(2) 15"49(+1.0) (東北総体)
楠木 啓介(M1)15"53(+0.5) (個人戦)
藤井 大輝(4) 16"49(+1.6) (個人戦)
大野 誠尚(1) 16"58(+1.6) (個人戦)
- ・男子 3000mSC
酒井 健(1) 10'27"02 (東北総体)
- ・男子棒高跳
藤井 大輝(4) 4m50 (仙台大競)
赤星 栄治(2) 4m20 (東北総体)
- ・男子走幅跳
須郷 大地(2) 6m41(+0.7) (東北総体)
- ・男子三段跳
須郷 大地(2) 13m33(-1.5) (東北総体)
- ・男子円盤投
嘉津山拓登(2) 29m93 (仙台大競)
- ・女子 400m
佐貫 有彩(3) 54"98 (国体)部記録
- ・女子 800m
小川 明音(1) 2'21"84 (個人戦)
加藤ひより(2) 2'24"55 (個人戦)
- ・女子 100mH
佐貫 有彩(3) 15"73(+1.5) (個人戦)部記録
- ・女子 400mH
柄澤菜々美(2) 1'11"87 (東北総体)
- ・女子 10000mW
青木まひろ(1) 52'47"57(個人戦)部記録
- ・女子棒高跳
峯村 遥香(1) 1m80 (個人戦)
- ・女子円盤投
田中 紀香(1) 35m48(東北総体)部記録

◎今後の予定

- ・ 3月 卒業祝賀会 (仙台)
- ・ 3月 春合宿

◎編集後記

全日本大学駅伝や秋の記録会シーズンが終わり、冬季練習の時期になってきました。今年
は全国の舞台で多くの部員が活躍し、陸上競技部にとって素晴らしい1年となりました。来
年さらに飛躍するためには、冬季に地道な練習を積み重ねることが何よりも重要です。しっ
かり目標を持ち、怪我に気を付けながら、部員一同冬季練習に励んでまいりますので、今後
とも応援よろしくお祈いします。 【文責 副務 黒須大地】

東北大学陸上競技部三秀会

〒980-0815 仙台市青葉区花壇2-1

東北大学評定河原グラウンド内

hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp